

第13回 1/600 大阪城(童友社)の巻



大坂城(「大阪」と呼称されるようになったのは明治以降らしい)は羽柴秀吉(のちの豊臣秀吉)が1583年に築いた城です。織田信長の築城した安土城を遥かに凌駕しており(秀吉が信長の後継者たることを天下に知らしめる為)、難攻不落の名城と謳われました(*1)。安土城が防衛拠点として山中に築かれた(山城)のに対し、大坂城は政治権力の中枢として平地に築かれた(平城)のも大きな特徴です。秀吉の死後、難攻不落の大坂城も徳川家康により遂に落城して焼失してしまいました。徳川幕府は大坂を西国監視の要所と位置付けて直轄地とし、城を再建しました。豊臣時代の遺構に平均7mも土盛りして(*2)新たに天守閣等を造営しましたが、この天守閣は間もなく落雷により失われています。昭和に入り大阪のシンボルとして大阪城に天守閣を求める声が大きくなり、秀吉時代の天守閣を描いた「大坂夏陣図屏風」等を参考に昭和6年に再建されたのが現在の天守閣(*3)です。内部は博物館となっており、エレベーターも設置されています。

キット発売は当然の事ながら1983年で、同社「ジュニアシリーズ」から天守閣周辺の情景部品を除いた特別仕様(その為600円の「ジュニアシリーズ」より安価)と見受けられ、部品は屋根・石垣と壁の二色成型となっています(建造物のプラモデルはスケールキットでは最も早くから「色プラ化」が進んでいた)。箱は築城400年の文字があしらわれたスペシャルな物となっており、葉書サイズの塗り絵(下)とこの塗り絵で応募するTシャツプレゼントのチラシが同封されていました。是非プリントアウトして塗り絵に挑戦してみてください(Tシャツはご用意できませんが...)。

余談ですが、最近この様なものが売られているのを発見しました。中々良さげです。白い部品一発抜きらしいのですが...買ってみようか？



高校時代、日本史の先生が秀吉や家康に関する面白い話を沢山聞かせて下さいました(皆嫌そうな顔をしていましたが私はとても楽しみでした)。*1について、当時秀吉が親友の前田利家に大坂城の自慢話をした記録があり、その中で「大坂城を攻め落とすには堀を埋めるしかない」等と豪語していたらしいが、多分家康にも同じ自慢をしたであろうから家康はそれを覚えていて実行したのだ、という大胆な説には興奮しました。また、*2に関して、土盛りの表向き理由は豊臣色を全否定する為だが、金・銀・鉛を

キットデータ

| | |
|------|----------|
| メーカー | 童友社 |
| スケール | 1/600 |
| 当時価格 | 300円(税抜) |

* 3 徳川時代の天守基礎の上に豊臣時代(風)天守を立てるのだから、その作業は困難を極めたことであろう。

* 4 日光東照宮の歴代将軍のみが利用するという石段は段と手すりが一つの石から削り出されており、見えないところに贅を尽くす幕府の姿勢に唖らされる、という話。

* 5 醍醐味を味わいたければ学校の帰りに三角形の雪印チーズを買って食べなさい、という話。中世日本では現在のチーズに当たる食品を醍醐と呼び忍者等が非常食としていたことに由来する。

多用していた建造物の焼け跡が重金属で汚染されとても人間が生活できるような雰囲気ではなかったから、という理屈を私と先生とでデッチアップしたりしました。この他にも日光東照宮の石段の話(* 4)、醍醐味の話(* 5)等、印象に残っている話が数多くあります。私の人生で最も敬愛する先生のうちのお一人でした。それだけに恩師の訃報を聞いたときには驚きました。心からご冥福をお祈り致します。